

心の栄養剤No164-① 「夢を実現する」ある小学6年生の作文

僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。

そのためには中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。

僕は3歳の時から練習を始めています。

3歳から7歳までは、半年くらいやっていましたが、3年生の時から今までは、365日中360日は激しい練習をやっています。

だから、1週間中で友達と遊べる時間は5、6時間です。

そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか、西部ライオンズです。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。

僕が自信のあるのは投手か打撃です。

去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会4試合のうちホームラン3本を打ちました。

そして、全体を通した打率は5割8分3厘でした。

このように自分でも納得のいく成績でした。そして、僕たちは1年間負け知らずで野球ができました。だから、この調子でこれからもがんばります。

そして、僕が一流の選手になって、試合に出られるようになったらお世話になった人に招待券を配って、応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は、野球選手になることです。

作者は愛知県西春日井郡豊山小学校6年2組 鈴木一朗。

夢、実現のヒント① ※自分と夢を信じ、迷わない事！！

先日、世界の～みんなのスーパースター、イチローの引退会見を涙しながら見てました。その会見で子供に向けた言葉としては・・・

『熱中できるものを見つけてほしい～それがあれば、どんな壁にも立ち向かえると思う』

とまるで小学6年生の自分自身に言い聞かせている感じで話されていました。そして

『人に喜んでもらえる事が一番の喜びで、それがすべてだ！』

とも・・・私達には想像も出来ないほど、いろんな苦勞～苦難の上での栄光だと思います。最後に心より「ありがとう～お疲れ様でした」と言いたい！！

心の栄養剤No164-② 「夢を実現する」ある主婦の話

小学1年生の〇〇くんは、お母さんに聞きました。

「お母さん、小さいころ、何になりたかった？」

するとお母さんは答えました。

「いろいろなものになりたかったのよ。おつかいでクリーニング屋さんに行くと、クリーニング屋さんになりたいと思ったの。学校で勉強が楽しいと、先生になりたいと思ったの。遠足で素敵なバスガイドさんを見れば、バスガイドさんになりたいと思ったの。家族でレストランへ行けばウエイトレスさんになりたいと思ったよ。」

「ふーん。じゃあ、お母さんの夢はかなわなかったんだね」

子どもからそう言われると、普通のお母さんならちょっと腹を立てて、言うかもしれません。「そうよ、お母さんはあなたたちを育てるために、夢をみんな犠牲にしたのよ」でも、そう言われて、心から喜べる子どもはまずいないでしょう。

〇〇くんのお母さんは違いました。「じゃあ、お母さんの夢はかなわなかったんだね」その言葉を聞くと、お母さんは首を横にふりました。

「ううん、ぜんぶ、かなったよ」

「えっ！ どうして？」

〇〇くんは、びっくりしました。

「だって、お父さんのYシャツにアイロンを当てるときには、クリーニング屋さんになった気がするし、〇〇くんに勉強を教えているときは、学校の先生になった気がするし、お父さんの車に乗れば、お母さんはバスガイド。それに、みんなに食事をだすときは、ウエイトレスさんになった気分よ」

お母さんはニコニコしながら言いました。

〇〇くんは、そんなお母さんを見て、大人っていいなって思うのでした。

夢、実現のヒント② ※日々の生活に感謝の気持ちを持つ事

イチローさんの話とは全然違うような～夢実現のように見えて、私には同じ話のような気がします。きっとこのお母さんも・・・

『人（家族）に喜んでもらえる事が一番の喜びで、それがすべて！』

とって日々生活されておられる結果だと思えます。

私達も状況、場面は違っても、このお母さんのように一日一日心豊かに生きていけたら～いや生きていかなくてはと思えます

